

OSFだより

第101号 2010(H22)年4月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舎の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

文字と本を大切に

会長 岡本 正

私は小学生の頃から字を書くのが下手で、今でもサインを求められると恥をかく。昔は習字(筆を使って書く)は、小学校の授業でも重要科目であった。ところが私は習字はクラスでも最低。読書は好きだったが、今は筆で書くことはほとんどない。万年筆も使用しない。ボールペンの時代になった。さらに「ケータイ」時代に移ってきた。伊豆半島の韮山に150年前、日本で初めてできた反射炉(製鉄設備)の一つが残っている。建設者江川氏の記念館もある。その中に当時使用したオランダ語の辞書が展示されており、見て驚いた。分厚い辞書の写本であるが、それが全部筆で書かれている。コピー機などない時代だ。一つ一つ筆で写すしかない。

考えると気が遠くなるような難しい作業だ。当時日本には辞書はなかった。唯一の外来語はオランダ語で、学ぶには写本しかない。オランダ人から借りてきた辞書を、学生が交代で夜も休まず書き写したのだ。辞書は貴重品、更に宝物だった。

このように苦心して作った写本を教材にして、一つ一つの単語を翻訳したのだ。

その苦勞の物語を、当事者の一人の杉田玄白が「蘭学事始」に詳しく書いている。文庫本になっているから簡単に入手できる。学問、科学を志す人は是非とも読んでほしい。例えば当時一流の学者5人が集まり、「鼻」という字の翻訳に1日かけている。

こういう先輩の血のにじむような努力の上に、現在の学問・研究が可能になった。

世界の文明はほぼ4、5千年前に四つの大河を中心にして発生したといわれている。エジプト(ナイル河)・イラク(チグリス河)・インド(ガンジス河)・中国(黄河)で、

そこにそれぞれ、異なった文字が作られた。日本には漢字が千四百年の昔、中国・朝鮮を経て入ってきた。これにより日本最古の書「古事記・日本書紀」が生まれたのだ。

15世紀の中ごろ、ヨーロッパで印刷機械が開発され、これによって書物の大量生産が可能になった。先日韓国の留学生から教えられたが、それ以前に韓国で世界最初の印刷機が発明され、現在パリの博物館に展示されている由。

このことにより多くの市民が容易に本を手にして、各種の情報をスピーディーに知ることが可能になり、文明・文化のレベルが格段と上昇したのだ。

今日現在では更に、パソコン・インターネット・携帯の出現により情報、知識の伝達は飛躍的に向上し、私のような老輩はとでも適応できない。しかし、私は思う。いつの時代になっても、書物の重要性は存続するのではないかと。情報機器が更に進歩することはよいことだが、核開発と同じで、プラス・マイナスの両方のバランスが必要だ。

また、読書の場合も、それぞれの専門書他に、教養のための古典も読みたい。イギリスの留学生から、「イギリスのトップクラスの大学生はシェークスピアの作品はすべて読んで」と聞いて、驚いたことがある。

中国の古典文学「西遊記」は私が子どもの頃の愛読書の一つだった。6世紀の昔、インドの仏典をヒマラヤを越えて中国に持ってきた、その苦難の旅行記だ。そして、西安のお寺に大勢の学者が集まり、仏典を中国語に翻訳した。以前私はそのお寺の側のホテルに泊まり、千年以上も昔の先輩達の苦難の物語を偲んだ。その仏典が今度は海を越えて、日本に来た。これが日本文化のスタートだった。

文字、本は人間にとって、神聖なものだ。みなさん、大切にしてください。

OSF 2010 年度前期行事予定

5月12日 会館生、緑町宿舎例会
5月15日,16日 奨学生一泊旅行
6月9日 役員会
6月11日 奨学生例会
6月16日 会館生、緑町宿舎例会

7月4日 会館OB会(バーベキュー)
7月13日 奨学生例会
8月5,6,7日 広島原爆慰霊祭参加
8月11,12,13日 鴨川海水浴
9月9日 奨学生例会
9月15日 会館生、緑町宿舎例会

計 俊傑（会館生）

中国（上海市）

慶應義塾大学商学研究科会計専攻

専攻科目の選考理由と将来の目標について

大学の経済学科に入り、経済、経営、会計、金融などについて幅広く学んできた。特にその中の「会計」を専攻した最初の理由は、就職後も役に立つからだ。「会計」は日本企業の三種神器（会計、英語、パソコン）の一種といわれるほど重要な存在。グローバル化の現社会において、利益の獲得を第一目的とする営利組織は「会計」を用いて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成し、各会計年度の財政状態と経営成績を測定する。一方、家計、また地方自治体、国、財団などの非営利組織も「会計」を利用している。私は大学3年目から会計ゼミに入り、特に会計の中における財務会計について学習してきた。これから大学院に進学して会計をより一層深めたい。

「会計」を専攻しているゆえに、会計の頂点にある「会計士」資格の取得は私の目標となった。世界中には「国際会計基準」、「米国会計基準」と「日本会計基準」の三大会計基準がある。バブルがはじけた後、日本では会計ビッグバンと呼ばれる一連の会計基準の改正が行なわれた。近年、日本の会計基準は主に国際会計基準に調和するという動きになった。一方、2002年米国会計基準はもうすでに国際財務報告基準とのコンバージェンスが合意されていた。このように、「会計」は日々動いている。三大会計基準は



国際会計基準に合流されるのがもはや時間の問題だ。また、現在国際会計基準の動向を握っているのが米国といっても過言ではない。そのため、私は最初に設定した目標は「米国公認会計士」。だが、各国の監査を実施するために、各国の会計士資格が要求されている。将来、世界中（特に中国、日本、米国）で活躍できるグローバルパーソンになるため、中国の「注册会计师」と日本の「公認会計士」を第二の目標として設定した。そして、最後の夢は自分の会社を作ることだ。それは会計事務所か、会計コンサルティングかはまだはっきり言えないが、会計と関わりがある仕事だと確信している。

少しハードな目標がずらっと並んでいるようだが、「自分が選んだ道だから、最後まで頑張り続ける！」。これから「会計」でメシを食っていくこんな私は家族にどのような幸福をあげられるのか、会社にどれほどの利益を生み出せるのかは分からない。しかし、故郷の中国と長く暮らしてきた日本、そして周りの人々に何か役に立ちたいと日々心がけている。

李 静（元奨学生）

中国（新疆ウイグル自治区）

麗澤大学言語教育研究科 比較文明文化専攻

私の夢

私は幼いころから、将来は医者の職に就きたいと思っていたので、高校で理科を選択し、数学、物理や化学などの理科学科目に一生懸命に取り組んでいた。しかし、どうも理科の素質がまったく備わっていないで、クラスの上位ランクになかなか入れず、高校3年生になったころ、医学部への進学をあきらめた。文科の成績は常にトップを保っていた私にとって、理科から文科への転向は難しいものではなかった。そこで、高校卒業後の進路として上海にある大学の外国語学部日本語学科への入学を選んだ。大学に入ってから、日本語の勉強を始めると、ますます楽しくなり、更に語学に強い興味を持つようになった。この時から私は、別に医者にならなくても、勉強も将来の職業も自分に合えば一番いいと思うようになった。

興味のある分野について知識を深めようという思いが、日本へ留学に来るきっかけとなった。麗澤大学の大学院で、私は日本語の語学力を向上させると同時に、日本文化にも関心を持ち、特に日本の古代史や民俗について研究を始めた。また、指導教員の欠端先生のゼミに参加したこと



によって、中国雲南省の少数民族の文化は日本文化と多大な共通点を持つことを知り、何回も先生と雲南省で調査を行っている。しかし、現地調査を行っているうちに、少数民族の現状を目にし、上海や北京などの内陸とはこれほど格差があることにただ驚いた。彼らは自然崇拜というアニミズム的宗教信仰があり、自然界の万物への畏敬、そしてすべての命を大切にすることや、自然を守るという意識は、現代社会に生じている環境問題の解決や、現代人の心に抱えている様々な問題の解決につながっていくのではないかと考えている。しかし、このような魅力的な民族文化は激しい現代社会の変動の中、商品化され、消滅の危機に直面している。私は、彼らの精神や文化は必ず世界の文明建設に貢献できると確信している。そして、私の夢は一人の研究者として、民族文化の保存と現代化というテーマで研究を進めていきたいというものである。

チュンマニ・プーヴィエン（会館生）

ラオス（ビエンチャン）

千葉大学 工学研究科建築都市科学専攻
会館生活一年間の感想



OSF 国際学生会館に住んでもう二年たちました。時間は本当に川のように流れていることに気づいていました。この二年の間にいろいろなことがありました。楽しいこともあれば、悲しいこともありました。皆と色々なイベントに参加するのは楽しいですが、卒業してからみんなと別れる時にはとっても悲しくなると思います。でもまたみんなと会えることを信じています。

最初に会館に入ったときに、多少慣れないところがありました。私は人と交流することが苦手で、あまりうまくしゃべれないから、最初は黙っているときが多かったのです。いまはすっかり慣れてきて、みんなの冗談もわかってきて、みんなと一緒にしゃべる時間が私にとって、すごく楽しい時間です。会館に住んでいる学生は色々なところから来て、違う文化・習慣を持っているので、普段聞いたことのないことも知ることになりました。専門知識以外の知識を理解することもできました。しかし、相手を理解する事は簡単ではありません。たまには口喧嘩をすることもありますが、結果的にはみんなお互いに許し合い、広い心を持って楽しい生活が維持できたのです。自分もこの二年の間に、大きな心をもつようになりました。性格も明るくなりました。

私は今年4月から博士2年生になります。きっと今よりさらに忙しくなると思っていますが、どんなに忙しくても、できるだけ会館の行事に参加したいと思っています。後輩として、先輩たちが作ったよい伝統を守っていきたいです。また、先輩として、後輩たちのいい先輩になりたいと思います。会館はみんなの家であり、みんなの帰る場所であるので、卒業してから会館を出て、社会人になっても会館の生活は忘れられないでしょう。きっと会館での生活経験は社会人としても宝物であると信じています。友達を大事にすること、自分のためだけではなく、みんなのために考えることはとても大事なことです。川が前に進むことしかできないように、私たちも前に進むしかありません。古い友達と別れて、新しい友達と出会って、会館は川のように永遠に前に進んでいきます。私たちはこの川の中の水滴であり、みんなが集まることで、川になるのです。一つの水滴よりは川の力が極めて大きいのではないのでしょうか。

金 錦花（奨学生）

中国（黒龍江省）

千葉大学 工学電子機械研究科人工システム科学専攻
日本に来て一番感動したこと



中国で大学を卒業して日本に来てもう一年経ちました。この一年間、沢山の思い出がありますが、ここではその中の一番感動した事を言いたいと思っています。

大学卒業後、大阪にある機械設計会社に就職でき、技術者として日本に来ました。初めの頃、町もわからないし、日本語会話もできないし、毎日会社と家で日本語の勉強ばかりしていました。友達がなくて、親からも離れて寂しいのはもちろんですが、その上、日本の食事になれなくて、本当につらかったのです。大学の友達を思い出した時も、親に電話した時も、母が作った料理を思い出した時も、泣きたくてたまりませんでした。そんな生活が4ヶ月続き、私は仕事を辞めて、国に帰ろうかなと迷い始めました。

そんな時、ある日のでき事が私の考えを変えました。会社の昼休みのとき、私が昼ご飯を食べ終わって店から出たら、大雨が降っていました。傘を持っていなく、会社に戻れない私は時計を見ながら、雨がやむのを待っていました。ちょうどその時、店で食事した一人の女の人が子供二人を

連れて店から出てきました。車に乗った三人の姿を見ながら、私は走って会社に戻ろうかなと考えました。その時、女の人が車を降りて、後ろから傘を一本出して、私の方に走って来て、“これを使っていいよ”と言いながら、かさを渡してくれました。私はあまり驚きすぎて、“はい”とだけ返事をする、女の方はすぐ車に戻りました。“ありがとうございます”も言わずに失礼なことをしたと思った時には、車の姿はもう消えていました。その傘のおかげで、私は雨に濡れずに会社に戻ることができました。

その日の夜、私は国に帰る考えを辞めて、必ず日本で成功するまで頑張ろうと決心しました。傘一本を貸してくれたことは大した事ではないと思われるかも知れませんが、あの女の人ののおかげで、私の考えが変わって、今まで日本で生活を続けられてきたと思います。“ありがとうございます。”

トピックスTopics!

卒業おめでとう！！

- ◎ 3月23日に千葉大学の学部生と敬愛大学の卒業式、3月25日に千葉大学院生の卒業式が行なわれた。式に参列し、OSFの学生達の晴れやかな顔を拝見し感動した。皆苦しい留学生活を乗り越えて、この日を迎えられ、本当によかったと思う。
- ◎ 3月20日、コンサムロート君（H14 会館生、カンボジア）が筑波大の修士課程を修了し、帰国の前日西千葉に来てくれた。彼は、いったん帰国後復学して見事に目的を達成した。頑張ったね。

～卒業生の皆さん本当に
オメデトウ～!!



結婚おめでとう！！

- ◎ 3月14日、ピエロン君（H17 会館生、カンボジア）が故郷カンボジアで結婚
- ◎ 3月26日、デラジャット君（H19 会館生、インドネシア）とマイさん（H18 会館生、ベトナム）がベトナムで式を挙げた。
～さわやかな季節のご結婚。お幸せに～

会館入退館

- ◎ 3月31日にカン君（ベトナム）が、4月10日にリンさん（ベトナム）が帰国した。会館での思い出をいつまでも忘れないでください。
- ◎ 3月19日、緑町宿舎にホアンさん（ベトナム、千葉大）夫婦が入居。仲良くやっていきましょう。

- ◎ 蔵谷さんに代わって、小林美知子さんが財団の新しいスタッフに加わってくれました。

これから末長くよろしくお祈りします。

- ◎ 財団の専務理事として長い間ご尽力くださった土橋厚二様が2月22日に逝去されました。

いつも穏やかに笑っていたお姿が、

昨日のことのように思い出されます。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

OB 来団

- ◎ 3月9日、秦穎潔さん（H14 奨学生、中国）が京都での学会のために来日し、財団に来てくれた大学の先生として輝いていた。
- ◎ 3月25日、来日中の陳漢さん（H16 奨学生、中国）が来団してくれた。東京で個展を開くとのこと。上海万博も近いますます活躍中だ。



趙さん



モニラ君



センマイさん



カン君の両親



新年度 奨学生の
初顔合わせ
緊張した顔が並んでいる。

- ◎ 3月6,7日、元顧問の故佐野元生さんの千鶴子夫人がスーパーダンス大会に留学生を招待してくださいました。素晴らしいダンスのパフォーマンスに皆感動したようだ。千鶴子夫人に心からお礼を申し上げたい。

～ホームページからOSFだよりをお読みの
みなさんへ～

OSFだよりが届いていない方、いらっしやいませんか。国内には年6回、海外へは3回、OBの皆さん全員にお送りしています。届いてない方、住所を教えてください。

届いている方も住所に間違いがある方はご連絡ください。

春は引越しのシーズンです。転居届を財団へもお忘れなく！！

皆さんと出会ったことをいつまでも

大切にしたいと思っています。